

壬生のサムライと

日光ブラインド

壬生町立歴史民俗資料館

〒321-0225 栃木県壬生町本丸1-8-33
(東武宇都宮線壬生駅下車、壬生城址公園内) TEL 0282-82-8544

主催：郷土の偉人顕彰作業実行委員会

開館時間：午前9時—午後5時

休館日：月曜日

観覧料：無料

聖地日光

をアート

プロデュースした男

2024.11.9 sat — 12.22 sun



2

現在、文化の力で地域を見つめ直し盛り立てる「地域ブランド」の開発が各地で盛んに行われています。遡ること明治時代の日光に、現代のアートプロデューサーの先駆けともいえる人物がいました。旧壬生藩士の守田兵蔵です。多彩な活動は必ずしも成功せず、知る人も少ないですが、時代の転換期に文化と産業を両輪として地域おこしに奮闘した軌跡は、現代に通じる魅力を放します。維新後、武士から鉾山技師に転じ、地元に戻って銀行や建設業など様々な事業を手がけた守田は、特に「日光ブランド」の美術工芸品を開発し、若手芸術家の育成に力を入れました。当時は殖産興業の下、欧米のジャポニズム人気を背景に、美術工芸品は輸出品の一つ。東照宮をいただく「聖地日光」には、新時代の新しい産業が求められてもいました。守田は各地の職人や画家を集め、自邸にペランダコロニアル様式美術工芸品陳列場〈鍾美館〉を開設。まず、外国人の避暑客向けに、絵画や漆工芸品を並べました。産

業化に向けて鉾山時代に築いた人脈を生かし本格的な活動を志向したようです。しかし、守田も造営に関わった田沼沢御用邸が完成すると、御用邸に近い〈鍾美館〉は行幸の際の儀仗兵舎として使われ、忘れられた存在になりました。守田の活動は結果的には行き詰りましたが、日光に芸術家を育て、「日光ブランド」を海外に発信した功績は多大です。

- 1 〈鍾美館〉(ペランダコロニアル様式部分) 写真 個人蔵
- 2 〈鍾美館〉製造(五百城文哉 東照宮・陽明門) 小杉放庵記念日光美術館
- 3 守田兵蔵肖像 個人蔵
- 4 〈鍾美館〉製造(日光堆朱硯宮) 個人蔵
- 5 〈鍾美館〉製造(日光焼 染付山水図花瓶) 個人蔵
- 6 上野桐恵〈浮彫 花鳥図衝立〉金谷ホテル株式会社



〔関連企画〕

ギャラリー・トーク
 日時：2024年11月16日(土)、12月7日(土)、12月21日(土) 各午後2時～
 集合場所：企画展示室入口(事前申込み不要、参加費無料)

ワークショップ〈日光彫実演〉
 日時：2024年11月9日(土) 午前11時～、午後2時～
 開催場所：展示室入口



壬生町立歴史民俗資料館
 〒321-0225
 栃木県壬生町本丸1-8-33
 (東武宇都宮線壬生駅下車、
 壬生城址公園内)
 Tel 0282-820844

「聖地日光」をアートプロデュースした男